

教育・人材育成

卒業生の進路 ジミー君の場合

2008年10月にミンダナオ国立大学を卒業したジミー君。専攻はコンピューターエンジニアリングでした。卒業後は CMIP 事務所でボランティアをしていましたが、6月の新学期開始からアトモロック小



学校ダタルルタイ分校(1~4年生のみ、全校生徒52名、2教室)にて補助教員をしています。

州道から脇道に入り、険しい山道を登り続けること2時間、20戸ほどのダタルルタイ村にたどり着きます。児童は歩いて1時間以上かかるマクラック村、マグボック村、20分ほどのダタルバゴ村からも通っています。

住民はほとんどがビラーン民族。ジミー君、いえジミー先生はいまこの分校で自分と同じ民族の子弟に教えることにすっかり夢中になっていました。

「私たちの」教科書が届きました!

(WE21 ジャパン・さいわい助成)

分校には教科書が先生用の1冊しかありませんでした。訪問の目的は新しい教科書を届けることと、この村で初めての巡回診療を行うことです。

英語、数学の教科書を手にするとジミー先生は即興で問題を次々と出していきます。最初は英語で出題し、生徒たちが理解していないかなと気づくとフィリピン語とビラーン語で補足していきます。

「古い教科書は難し過ぎたり、内容が古く理解しづらかったです。また僕自身も教職課程ではなかったの、指導する技術がそれほどありません。大学のサマークラスで学び直したい。」と語るジミー先生は、実はその抜群の英語能力でセブ市のコールセンターに就職が決まっていた。それを断ってでも、村に残りたい、仲間の役に立ちたいという学生を応援できたことは当会にとっても喜びです。

◆ 定期教育支援現況 ◆

ブラクール校支援 (会員21名が支えています)

今年度は毎月3万円で教師5人の給与補填をするともに、特に貧しい子どもの授業料・教材費を支えています。PFPから届いた報告では、昨年度の対象者13名のうち2名がマラリアで休学、1名は家の手伝いで退学したため、現在は11名に奨学金を支給しています。

あしなが奨学金 (6名で以下4名を支えています)

ジョセフ(レイクセブ町 SCMSI カレッジ地域開発学部2年) ルナ(同3年) クリスチーナ(ニノイアキノ・カレッジ初等教育科2年) カトリーナ(同2年)

CMIP 担当の小学校・ハイスクール・カレッジ奨学金支援

カレッジ生14名は全員無事に前期末を迎えましたが、ハイスクール奨学生は生活苦による転居や結婚など

により3名が中退、35名に減りました。

小学生は42名です。うち支援者が決まっていない子どもが写真のキンバリちゃん(3年生)含めて5名います。

月額500円の小学生奨学金支援にご協力をお願いします。



◆ CMIP 医療定期支援 ◆

1ページ報告の活動も含め、医療定期支援はCMIPクリニックで以下のように使われています。

6月報告: <主な症例> 風邪、発熱、頭痛 29名、下痢、嘔吐4名、高血圧2名、他合計43名受け付け。うち25名がG. サントス公立病院で、13名がCMIPクリニックで治療を受けた。月例ミーティングで8月に形成外科治療があることをスタッフに伝え、該当する患者を報告するようにお願いした。

7月報告: <主な症例> 前月とほぼ同じだが、デング熱4名を含む合計46名受け付け。多くはG. サントス公立病院で、軽症者はCMIPクリニックで治療。トゥロクバト村で巡回診療。88名を診察。

8月報告: <主な症例> 前月とほぼ同じだが、デング熱2名を含む合計40名受け付け。ねずみによる食害が広がっているマルンゴン町で、飲料水に殺鼠剤が混入する事故があり、バリテ村の5名が近くの町立病院へ入院。様子を見に行く。ダタルルタイ村で巡回診療。150名を診察し、薬を配布した。(クリニック責任者ジョジョの報告より)